現職の応援団という意識を持って活動を行っています。

毎年、八月九日には長崎への平和行動を、八月十五日には平和集会（辛島公園）を開き、非戦平和に力を入れています。十月には講習会を開き身近な問題の学習会を行い、交流会も実施しています。

医療や介護制度の充実を願い、県への要請行動を毎年行っています。生活の場である地域活動を重視し、六つの地域協議会をつくり、推薦議員と共に各市町村と意見交換会を実施しています。

天草退教（忘年会）

（7）熊退教協ニュースの発行

熊退教協ニュースの発行の意義について改めて考えてみますと、その位置づけは大変重要です。県下すべての会員の皆様に大切な情報をお届けするために、熊退教協はどんな基本姿勢のもとに、どういったことに取り組んでいるのか、内外の動きを受けての今後の取り組みの予定などを中心に編集しています。また、各地区の活動を交流し、仲間のつながりを深めるために、地区退教協の活動の紹介、新加入や傘寿・卒寿・白寿の皆様方からのご投稿も紹介しています。

一九八六年十二月に第一号発行以来、年三回ずつ発行し続け、今号は第一一〇号であり、五十周年記念号となりました。これからも読みやすくわかりやすい紙面づくりに心がけてまいります。

（8）支え合いをめざすカンパ支援活動

この五十年間にも、阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本大地震・熊本大水害をはじめ多くの自然災害が発生しました。熊退教協は日退教と共に被災者支援に向けて取り組んでいます。

熊本大地震（二〇一六年）と熊本大水害（二〇二〇年）が発生した際は、日退教を通じ全国の都道府県退教協から三二四万円超の救援金をお寄せいただき、ここに改めて感謝申し上げます。

転じて、二〇二二年二月二四日突然ロシア軍がウクライナに侵攻し子どもたちの逃げ惑う姿に言葉をなくした私たちは、ウクライナに平和な日々が戻ることを願って、緊急募金活動に取り組みました。

二〇二二年度末までに、二五八、七二四円を、「武器ではなく子どもたちの教育とくらしのために生かしてください」とのメッセージを添えて、東欧の平和フォーラムに送ることができました。

今後も連帯する全国の仲間と共に、平和運動や自然災害復興にできる限りの支援を続けます。皆様方のご協力をお願いします。

城北退教（軽トラ市）

上益城退教（文化祭）

（9）私たちの思いを議会へ

退職後の生活にかかわる〝年金・医療・介護〟を始め、教育、平和、人権、環境など、暮らしに関するすべての法律・制度・政策を決定する場は、議会です。

私たちの思い・願い・声を代弁していただける方を議会へ送り出す――それが選挙活動です。私たちは唯一教育現場を知る「岩田とも子さん」（元熊教組委員長）を二〇一五年以降、三期連続で当選させてきました。これが県の教育行政に大きな影響を与えてきたことは確かです。また、他の推薦議員さん方とともに、「人権や平和、環境を守る」取り組みにも常に尽力されてきています。

候補者を当選させるための努力や行動は地道で、決して楽なものではありませんが、『平和で人権が尊重され安心して暮らせる社会』を創るため、選挙活動にも力を入れて取り組みましょう。

菊池退教（歓迎会）

熊政連議員

熊本県議　岩田とも子
熊本市議　村上ひろし
菊池市議　猿渡みち子
山都町議　西田ゆみこ
熊本市議　田上たつや
山鹿市議　勢田　昭一

日政連議員

参議院議員　みずおか俊一（兵庫県）
参議院議員　古賀ちかげ（福岡県）

（10）『平和・人権・福祉・つながり…』を求めて

◎平和憲法を守り、くらしの中に活かします

○軍備費を増強し〝戦争ができる国〟にさせない
○沖縄を再び戦場にしない
○原子力発電所の新増設を認めない

◎ちがいを認め合い、多様性を尊重します

○障がいの有無、性別、容姿、出身地、国籍などによる偏見・差別を許さない
○ジェンダー平等社会をめざす

◎支え合い助け合いを大事にしていきます

○「自己責任や自助努力の強調」・「生産性の有無で人の価値を決める」等のおかしさをただしていく
○沖縄や福島原発など全国的な問題も、自分事として捉え対応していく
○水俣病、ハンセン病、産業廃棄物処理問題など県内の様々な課題に向き合い、連携していく

◎〝人は皆、幸せに生きる権利を有している〟

○人権侵害、戦前回帰につながる動き、分断や対立をあおる言動、環境破壊――こういったことを許さず、おかしいことはおかしいと主張していきます
○つながりを大事にし、「みんなが、生きてきてよかったと思える社会づくり」をめざします

〈編集後記〉

本号を読まれてのご意見等をお待ちしています。会員の皆さん方の思いを紡いでまいります。20年後、30年後…50年先も、『熊退教協の灯』が力強くともし続けられているよう願っています。